

1. 職種と職歴（現在の職場）。

医師	1名：26年（4年）
診療所看護師	2名：22年（5年）、18年（5年）
診療放射線技師	1名：16年（5年）
臨床検査技師	1名：39年（4年）
救急救命士	6名：16年、15年（26年）、15年、14年、13年、10年（8年）
救急隊員	2名：16年、13年、
消防職員	1名：12年（9年）
不明	2名
計	16名

1) 全例検討会は有益でしたか？

- | | |
|--------------|-----|
| a) とても有益であった | 14名 |
| b) 有益であった | 1名 |
| c) どちらともいえない | 1名 |
| d) 有益ではない | 0名 |
| e) その他 | 0名 |

2) 全例事例検討会をすることで医師や看護師のメリットは何ですか？

- ・病院前診療の内容把握
- ・プレホスという未知な活動の様子など知ってもらい興味をもってもらえることができる。
- ・症例の全体像がみえやすく、良く知らない症例も学べた。
- ・振り返りを行うことで反省点、問題点を明確にできる。

3) 全例事例検討会をすることで救急救命士にとってのメリットは何ですか？

- ・治療経過を学べる。×3
- ・検査所見の説明が勉強になった。×3
- ・アドバイスが医師から聞ける。×3
- ・観察のコツ、ポイントを学べた。×2
- ・医療スタッフとのコミュニケーションが取りやすくなる。×2
- ・反省点の洗い出しができる。×2
- ・重症例のみのカンファレンスで気付かないことが発見できる可能性がある。
- ・トラブルの早期解決。
- ・情報共有ができた。
- ・救急救命士がどのような考え方で活動しているかを診療所側に知ってもらえた。
- ・問題点について協議できた。

4) 全例検討会をおこなうことでのデメリットを教えてください。

- ・時間が長くなることがあった。×5

- ・参加日程の調整が限られていた。×2
- ・準備が大変。
- ・知識習得への意欲に個人差がある。
- ・時間が17時以降で家庭を持っているスタッフには負担だったと思う。
- ・特になし。×3

5) 全例事例検討会をする前と後で変わったことはありますか？

- ・診療所スタッフと連携。×3
- ・顔を合わす機会が増えたので、コミュニケーションが取りやすくなった。×3
- ・救急受け入れ後に優先すべき事がわかってきた。×2
- ・診療所スタッフと共通認識ができ活動が円滑化。×2
- ・交流ができること。×2
- ・学んだことを現場で使える。
- ・全職員へ情報の周知ができた。
- ・自分の対応した症例を振り返ることで自らのステップアップをして行こうという思い。
- ・信頼関係が深まった。
- ・相互理解の高まり。

6) 全例検討会についての感想を自由記載下さい。

- ・医師の負担が大きい。(月症例の一覧表作成、X線写真等の資料用意、院内周知) ×2
- ・話しやすい環境の場だったので有意義でした。×2
- ・救急救命士以外への教育も必要であった。
- ・実施して良かった。
- ・参加する人、しない人が決まってくる。
- ・多職種が参加していたのでチーム医療的な感覚を持つ事ができた。
- ・他の救急隊の活動を知ることができた。
- ・小さな町で1消防と1医療機関が連携をとり、定期的な評価をうけることは、消防の意識向上につながると思う。
- ・救急に携わってきた医師だからできたことだと思う。
- ・多職種が参加していたので刺激になった。